

2022年度第5回執行理事会議事録

日 程：2022年12月10日（土）10:00 - 12:00

【WEB会議】

出席：岡田会長，杉田副会長，星副会長，中澤常務理事，内尾，内野，尾上，緒方，加藤，亀高，小宮，高嶋，辻森，松田，山口，矢部

監事：岩部良子

欠席：狩野，坂口

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席

*前回22-4議事録案確認

報告事項

1. 全体的報告

- ・日本地球惑星科学連合（JpGU）第27回学協会長会議が開催された（11/29；オンライン，中澤常務出席）。大会の共催セッションの確認，学術会議マスタープランの紹介，JpGuでの学協会事務局業務の請負について
- ・2022年度自然史学会連合総会が開催された（12/4，兼子尚知委員出席）。
- ・文部科学省より，次期（令和6年度開始）「地震火山観測研究計画」のアンケート調査依頼があった。各専門部会へ議論を依頼して回答を取りまとめる。回答期日12/27。
- ・岡田会長へ日本応用地質学会誌「応用地質」63巻6号（令和5年2月号）巻頭言の執筆依頼があり，承諾した（原稿締切1/15）。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

- <共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>
- ・観察会「宅地開発で隠れた衣笠断層帯を歩く」（2023/3/18；三浦半島活断層調査会主催）の後援依頼があり，承諾した。
- ・原子力総合シンポジウム2022（2023/1/26；於学術会議講堂，日本学術会議主催）への協力依頼があり，「後援」として承諾，回答した。
- ・Techno-Ocean 2023（2023/10/5 - 10/7；於神戸国際展示場）への協賛依頼があり，承諾した。

<会員>

1. 今月の入会者（なし）
2. 今月の退会者（1名）正会員：坂東大輝
3. 今月の逝去者（なし）
4. 2022年11月末会員数

賛助：27，名誉：38，正会員：3241 [内 正会員：3118，院割：116，学部割：7] 合計：3306（昨年比-57）

<会計>

特になし

<その他>

・会員情報のクラウド化について、事務局内では運用を開始しているが、会員に公開する画面の検索機能の実装などをカスタマイズ作業中であり、なるべく早くの公開を目指している。

5. 広報部会 (内尾・松田)

1) 広報委員会 (内尾)

・第14回惑星地球フォトコンテスト募集中(2023年1月30日締切)。今年は、入選の枠から「大学生/大学院生賞」1件を新設する。全体の賞金予算枠内で運用する。
・ニュース誌投稿原稿の改定要求に対する異議申し立てについて、前委員会での対応を引き継ぎ、当該会員へ回答する(12/20付回答)。

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

・第6回ショートコース(22/12/18開催予定)：参加申込受付を12/12(月)12時まで延長する。

・山形大会準備状況：LOC会議第一回目を開催し、役割分担と当面行うことの確認をした。巡検コースの検討、会場の確認と仮予約、学会運営業者選び、学長などへの挨拶を調整する予定。巡検コースは候補がある程度上がった状態。

・2023JpGU大会において次の地質学会共催セッションを提案した。(1.岩石・鉱物・資源、2.変形岩・変成岩とテクトニクス、3.年代層序単元境界の研究最前線、4.火山・火成活動および長期予測、5.堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動、6.活断層と古地震、7.日本列島および東アジアの地質と構造発達史、8.地球史解説：冥王代から現代まで、9.地質学のいま、10.Evolution and variability of the Asian Monsoon and Indo-Pacific climate during the Cenozoic Era、11.ジオパーク)

・早稲田大会に対する構造地質部会からの意見が紹介された。

・行事委員会の委員の交代も理事会に上程する。

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

特になし。

3) 国際交流委員会 (辻森)

・IGC2024韓国LOCより、plenary speaker at IGC 2024の推薦依頼があった。回答は保留。

4) 地質標準化委員会 (内野)

・国際年代層序表の最新版(v2022/10)の日本語版を作成し、更新履歴と合わせて11月末に学会HPを更新した。

5) その他

・前回執行理事会での議論を受け、学術戦略ワーキンググループ(WG)を立ち上げる。メンバーは次の通り。尾上哲治*、黒田潤一郎、小宮 剛*、菅沼悠介、田阪美樹、辻森 樹*、星 博幸*、山口飛鳥*(*印は執行理事)情報については執行理事会内で

も共有する。

5. 編集出版部会 (狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告(2022年12月9日現在)

・2022年投稿論文：66 [内訳] 論説32(和文29, 英文3), 総説9(和文9), ノート4(和文4), レター8(和文6, 英2), 報告3(和文2, 英文1), フォト1(和文1), 巡検案内書9

査読中：22, 受理済み：7

・128巻：公開済み30, 入稿・校正中22

(2) 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改訂について(→2022年度第4回理事会審議事項へ)

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

(1) 編集状況報告

(2) IFは23年は低下する。IFの計算方式が変わって23年度からは厳密になるため低下する。公開された論文は全て公開年でカウントされることとなる。

3) 企画出版委員会 (松田)

特になし。

6. 社会貢献部会 (坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会 (坂口)

・早稲田大会のジュニアセッションにて、優秀賞3件、奨励賞4件を決定した。

2) 地質技術者教育委員会 (坂口)

・委員の追加(→理事会審議事項へ)

2021年度人材動向調査の結果(ニュース12月号, 学会HP掲載)について理事会で報告する。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

特になし。

4) 地震火山地質子どもサマースクール (星)

・三学会連合企画委員会が11月20日(日)にオンラインで開催され、本年度開催された浅間大会の概要、2023年大会(神奈川県平塚市で開催予定)、2024年大会(徳島県三好市・板野町等で開催予定)、2025年以降の開催地応募状況等について確認・議論した。

・本年度予算に関して、赤字分の補填依頼が3学会に届いているが、地質学会は浅間大会の収支報告を受けた後に支払うことになっている。地質学会への補填依頼額は3万円程度になる見込み。

・2023年の平塚大会は2日間で、関東地震100年を踏まえて「地震と防災」を主なテーマにする。実行委員会が立ち上がり(事務局は平塚市博物館)、実行委員長は穴倉正展氏(産総研)。本年11/23に実行委員が現地を見学を行う。この大会もセコム助成金を申請する(2022浅間は採択)。浅間大会の報告記事をそれぞれの学会で作成し学会HP等にて公開する(地質学会はニュース誌12月号, 学会HP掲載)。

5) 地質の日 (矢部)

11月20日に街中ジオ散歩の打合せを行った。2023年度は横浜市周辺で開催予定。1月8日に見学を行う。平塚大会のサマースクールも絡めて活動していく。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)

特になし。

2) 若手育成事業検討WG (内野)

特になし。

3) 表彰制度検討WG (中澤)

特になし。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし。

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

特になし。

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし。

4) 地質災害委員会 (松田)

・防災学術連携体より、開催予定の関東大震災100年関連行事等の有無について調査依頼があり、回答した(開催予定イベント：第22回地震火山地質子どもサマースクール in 平塚)。このほかにも地質学会としての関連行事を実施する方針。運営については関東支部にも協力いただく形を検討する。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

・2023年度名誉会員推薦委員会委員の選出(→理事会審議事項へ)

6) 各賞選考委員会 (中澤)

・2023年度各賞候補者募集を締め切り、学会賞1件、功績賞2件、都城秋穂賞1件、H.E. ナウマン賞1件、柵山雅則賞2件、の推薦に対する選考検討委員会の設置を執行理事会に依頼した。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)

特になし。

8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし。

9) 法務委員会 (中澤)

特になし。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

・委員交代について(→理事会審議事項へ)

2) 法地質学研究会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特になし。

10. その他

1) 早稲田大会時に実施した若手会員を対象にしたアンケート調査の結果報告 (星)

巡検の要望が多かった。詳細は理事会で神谷理事から報告予定。

2) 学部学生・大学院生向けオンライン交流会の企画提案 (星)

学部学生・大学院生向けオンライン交流会企画書案について桑野理事から修正案が提出され、理事会に上程する。

3) 若手巡検・研究会の企画提案 (星)

地質若手巡検・研究会の開催要綱案について若手有志会から修正案が提出され、理事会に上程し下岡理事が説明する。巡検への参加補助についてのサポートでは遠方の参加者

の旅費をサポートする案も提案する。

審議事項

1. 各賞選考検討委員会委員の選出について
中澤常務から、前・現会長ほか8名の推薦があり、承認された。順次打診する。
2. 選挙規則の改正について
・学会運営におけるダイバーシティ推進のため、代議員、理事の階層（所属別定員充足数）に若手（職を持った若手を含む）と女性の枠を新たに加える方向で検討を進める。

・電子投票にも対応した細則に変更する。選挙システムの実装は次の選挙には間に合わない可能性が高い。

3. 理事会資料の確認

監事コメント

（岩部監事）若手からの意見を受けて、学会としてどう対応するか、また対応した結果をきちんと若手に提示し、学会が若手の意見に耳を傾け、対応する姿勢をきちんと見せることはとても重要と思う。これからも若手への支援・協力をお願いしたい。選挙規則の改定

については、電子投票への対応は、効率的・経済的な側面もあるのでぜひ進めて頂きたい。ただし電子投票が難しい会員への配慮も併せてお願いしたい。

以上

2023年1月21日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努